

在宅血液透析(HHD)に対する患者・スタッフの意識調査

医療法人衆和会 長崎腎病院

○田賀農恵 佐藤泰崇 林田征俊 久保純子 白井美千代 丸山祐子 原田孝司 船越哲

【背景】

2008年にHHDに取り組み始め、2015年にHHD推進チームを発足して広報活動に力を入れ、現在患者数は予定者も含め21名となった。また推進チーム発足と共にスタッフ教育や管理体制を構築してきた。

【目的】

患者、スタッフの意識の変遷を調査し、今後のHHDに関する啓発や教育に活かす

【対象・方法】

当院外来維持透析患者、看護師・臨床工学技士に対し、2015年と2018年に意識調査を施行し比較検討した。

【結果】

[ここで具体的に2015年と2018年のデータを述べる]と、院内のHHD推進チーム発足後2年間にHHD推進を法人の年間目標として掲げ、推進活動や勉強会を行った結果、HHDに対する認知度、関心度は高まる傾向にあった。この間、透析室に従事するスタッフに対しては毎月指導者育成目的で勉強会を開催、患者指導も各部署で担当制にした。

【考察】

病院全体で取り組んだことに加え、前回の患者への意識調査では、透析歴が短い患者程HHDに関心を示したため、保存期や転入患者、導入して1年未満の患者に対して必ずHHDの情報提供を行うように努めたことも患者数増加の一因と考える。